



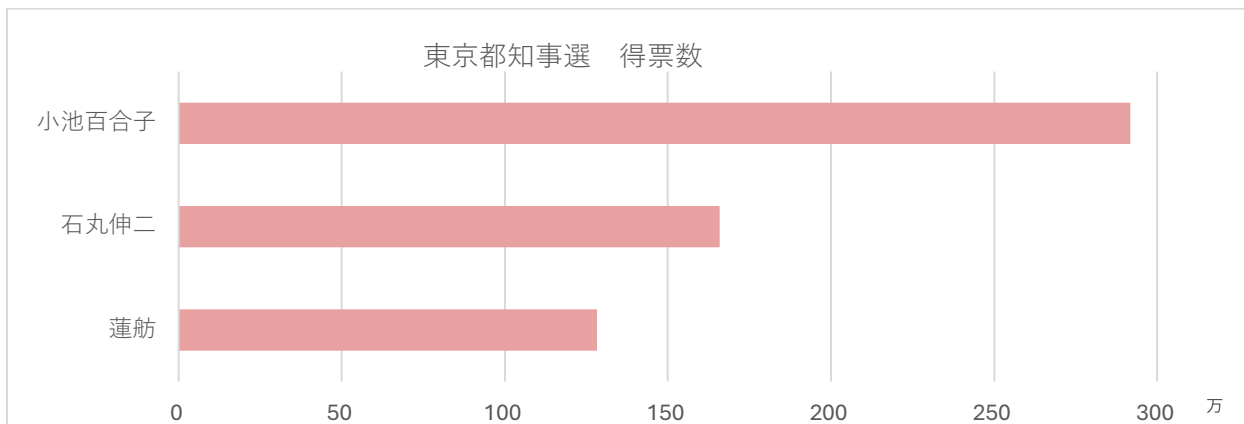
GR Japan 株式会社
東京都知事選 総括レポート

2024.7



2024 年東京都知事選挙 総括

過去最多の 56 人が立候補した東京都知事選挙は、現職の小池百合子氏が 3 選を果たした。現職が敗れたことのない都知事選において、2 位に 120 万票以上の差を付けた小池氏の圧勝だったが、立憲民主党の参議院議員だった蓮舫氏が 3 位に沈み、政党色を出さず SNS を駆使した前広島県安芸高田市市長の石丸伸二氏が次点となる波乱の展開となった。小池氏の勝利は、知事としての安定感や子育て支援などの実績が評価されたもので、今後の都政運営にも大きな変化はないとみられる。一方、立憲や共産党の全面支援を受けた蓮舫氏が大敗したことは、次期衆院選での野党連携の構図に影響を与えるほか、既成政党への批判票を集めた石丸氏の躍進で、与野党共に衆院選に向けて戦略の見直しを迫られる結果となった。



今回の選挙は当初、自民・公明が支援する現職の小池氏と、立民、共産両党が支援する蓮舫氏の事実上の一騎打ちと見られていた。蓮舫氏が出馬表明したのは、野党候補が勝利した静岡県知事選挙の翌日で、報道各社は「自民 VS 反自民」の構図を強調したものの、実際の選挙戦は異なるものであった。政治資金を巡る問題で自民への逆風が強まる中、小池氏は自民・公明の支援を前面には出さない「ステルス戦略」を貫いた。一方の蓮舫氏は、立憲を離党し政党色を弱めたものの、実際には立憲や共産の国会議員と連日街頭演説に立ったことで、党を挙げた支援が印象付けられた。また共産との連携で国民民主党が支援を見送ったことに加え、立憲の最大の支持団体である連合も小池氏支持に回った。



無党派層の多い東京で、既存政党への批判票を取り込み、蓮舫氏を上回る約 165 万票を獲得したのが石丸氏だった。政党などの組織的な支持基盤がなく、都民の知名度がそれほど高くなかった石丸氏の得票は、「石丸ショック」として与野党に衝撃を与えている。石丸氏は広島県の山間にある人口 2 万 6000 人ほどの安芸高田市で 2020 年から市長を務め、地元議会との対立を Youtube で発信することで注目を浴びた。選挙期間中も、都内各所での街頭演説の様子を公式アカウントで積極的に配信したが、石丸氏のネット上の知名度を飛躍的に高めたのは、候補者陣営が配信した動画や街頭演説の映像を第三者が再編集し短時間にまとめたいわゆる「切り取り動画」が広く拡散されたことだ。2013 年に日本国内でインターネットを使用した選挙が解禁されて以降、各候補者による SNS 等での発信が浸透してきたが、今回の石丸氏のように第三者も含めた動画の拡散が直接投票行動に結びつき、政党が全面支援する蓮舫氏を上回る票を獲得したことは、各政党にネット基盤の強さを再認識させ、今後の選挙での SNS 活用に一石を投じることとなった。

小池都政 3 期目の見通し

小池氏は「東京大改革 3.0」と銘打った選挙公約に、子育て支援策拡充や首都直下地震に備えた防災対策、スタートアップ支援を中心とした経済政策を盛り込んだ。また観光振興のさらなる加速、ナイトタイムエコノミー推進などインバウンドを中心に観光客を東京に呼び込む政策の重要性を訴える。カジノを含む統合型リゾート (IR) については、従来から「メリットとデメリットの部分をしっかり検討していく」との立場で、誘致検討調査のための予算として 1000 万円を毎年計上している。ただ 2 期目の 2020 年からは予算を計上しながらも、調査は実施されていない。これは都議会で協力体制を築いている公明党が IR に消極的であることに配慮していると見られる。日本での IR 事業にとって、東京は依然として重要な候補地の一つではあるが、今回の選挙でも小池氏が公明党の支援を受けたことを考慮すると、急な方針転換は考えにくい。

小池氏は 7 月 31 日から 3 期目の任期をスタートさせるが、2016 年の知事就任後も、日本初の女性首相候補として常に国政復帰の噂が取り沙汰されてきただけに、今後の動向には引き続き政界の注目が集まる。

国政への影響



都知事選に独自候補を擁立せず、小池氏の支援に回った自民党だが、政党色を出さず SNS を駆使した石丸氏が次点となったことは、「既成政党への否定」として危機感が高まっている。また知事選と同日に実施された都議会議員の補欠選挙では、候補者を立てた 8 選挙区のうち 6 選挙区で敗れる惨敗で、政治資金問題で揺らぐ自民党への有権者の根強い批判が浮き彫りとなった。自民党内からは、支持率が低迷する岸田文雄首相の退陣を求める声も上がっており、9 月の自民党総裁選に向けた駆け引きが加速している。「ポスト岸田」の候補者としては、従来から名前の上がる茂木敏充幹事長や石破茂元幹事長、小泉進次郎元環境相、河野太郎デジタル相、高市早苗経済安保相らに加え、刷新感を重視し、小林鷹之元経済安保相ら若手・中堅議員も浮上している。

一方、高い知名度を誇る蓮舫氏が 3 位に終わったことは立憲内に衝撃を与え、自民への逆風で高まっていた政権交代への機運に水を差す結果となった。NHK が 7 月 8 日に公表した世論調査では、立憲の政党支持率は 6 月調査から 4.3 ポイント減の 5.2% に下落し、28.4% の自民に大きく引き離された。蓮舫氏が 2022 年参院選東京選挙区で獲得した約 67 万票に、別の立憲候補と共産、社民両党の候補各 1 人の得票を足し合わせると 178 万票超に達したが、今回の蓮舫氏の得票は約 128 万票にとどまった。立民内には、共産との全面協力で無党派層が離れたことを大敗の要因とする声も少なくなく、9 月に実施される代表選を見据え、野党連携のあり方についての議論が活発化する見通しだ。

今後の政治日程		
2024 年	9 月	自民党総裁選挙（20 日か 27 日に実施か） 立憲民主党代表選挙（泉代表任期は 30 日）
	10 月	臨時国会開会？
	11 月	米大統領選挙
2025 年	1 月	通常国会開会
	4 月	大阪・関西万博開幕
	夏	参院選、東京都議会議員選挙
	10 月	衆院議員の任期満了（30 日）



また今回、独自候補の擁立を見送り、特定候補の支援も行わず「静観」した日本維新の会は、終始蚊帳の外で、全国政党を目指す上で欠かせない東京での選挙で存在感を示すことができなかった。同党内には、石丸氏の躍進は、既存勢力に対する不満の受け皿を自負してきた維新の立ち位置を奪うもので、二大政党に対抗する第三極としての地位が揺らぎかねないとの警戒感が広がる。石丸氏は今後の国政進出も排除していないことから、維新は次期衆院選に向けた戦略の見直しを迫られている。